

茨城セキスイハイム株式会社と包括連携協定を締結

2月13日、茨城セキスイハイム株式会社（寺内勝代表取締役社長）と包括連携協定を締結しました。

この協定は、双方が持つ有効な資源を活用し協働することで、地域課題に適切に対応し、一層の地域活性化に資することを目的としています。

同社は、茨城に根差した住宅メーカーで、県内で数多くの住宅を建築し、住環境のスペシャリストとして取り組んでいます。今後は、同社が培ってきたノウハウを生かし、市の地域活性化や移住定住、災害対策などについて、相互連携を進めていきます。



協定を締結した寺内社長(左)と神達市長



表彰された岡野さんと山木さん(右から)
※三浦さんは当日都合により欠席されました。

統計功労者表彰を受賞

長年にわたり統計調査に携わり、統計事業の推進に貢献された当市の統計調査員3人が、茨城県統計功労者表彰を受賞しました。

2月13日に市役所で伝達式が行われ、神達市長から受賞者へ表彰状が手渡されました。(敬称略)

◆茨城県統計協会総裁表彰

三浦 正敏(若宮戸) 山木 正男(東野原)
岡野 宗一郎(坂手町)

ハロー！ミュージアムを開催

2月17日に茨城県近代美術館のアウトリーチ事業「ハロー！ミュージアム」が図書館で開催されました。

「図書館で茨城のアートにふれよう」というテーマで上映され、茨城出身の作家の作品や、茨城の自然を描いた風景画など多くの作品を美術館スタッフの説明を聞きながら鑑賞しました。

参加者からは「次回があればぜひ参加したい」「近代美術館に足を運んでみたい」と好評でした。



スタッフの説明を聞きながら「ハロー！ミュージアム」を楽しむ参加者たち



3月15日に神達市長から賞状を授与された池田さん(左)とその作品

総合計画の表紙に中学生の作品を採用

じょうそう未来創生プラン（常総市総合計画）後期基本計画に掲載するイラストを募集した結果、35点の応募があり、水海道中学校2年（学年は3月現在）の池田莉子さんの作品が最優秀賞に選ばれました。

「歴史や特産品、市の鳥や花などから、水資源が豊富で緑あふれる常総市が作られていることを表した」という池田さんの作品は、先月策定の本年度からスタートした後期基本計画（2023年～2027年の5年間）の冊子の表紙に採用しました。本紙の表紙にもなっていますので、ぜひご覧ください。

「道の駅常総キャッチフレーズ」と 「食と農と健康の産業団地」名称の採用者を表彰

広報常総2月号、3月号でお知らせをした道の駅常総のキャッチフレーズと産業団地の名称採用者の表彰式を2月24日に行いました。

今後キャッチフレーズについては道の駅の切符や、ホームページ、ガイドブックなど、産業団地の名称についてはサイン看板や地図表記などで活用していきます。

◆道の駅常総のキャッチフレーズ：「食農楽のむすびまち 輝くえがおをつむぐ駅」

採用者：常総市立石下中学校1年 ^{ひがし} 東 ^{いっせい} 一星さん

◆食と農と健康の産業団地の名称：「アグリサイエンスバレー常総」

採用者：茨城県立水海道第一高等学校附属中学校1年 ^{くるみだ} 来見田 ^{ともや} 知哉さん



採用者の東さん(左)と来見田さん(右)



土田会長(左)から交通安全グッズを受け取った
神達市長と岡野教育長

交通安全を願い、ランドセルカバー など寄贈

3月7日に常総地区交通安全協会(土田武利会長)から、ランドセルカバー、お守り型反射材、自転車用LEDライトが寄贈されました。

寄贈されたランドセルカバーなどは、各小中学校の新入生に配布し、子どもたちの登下校の安全安心に役立っています。

全国小学生選抜サッカー選手権で優勝

地区大会を勝ち抜き、令和4年5月3日から5日に横浜市の日産スタジアムで開催された「JA全農杯全国小学生選抜サッカー決勝大会」に出場し、見事優勝を果たした鹿島アントラーズつくばジュニアに所属する茂呂創さん(菅生小学校6年)が、2月21日、神達市長を表敬訪問し、優勝を報告しました。茂呂さんは「チームの優勝に貢献することができてよかった」と感想を話しました。今後の活躍も非常に楽しみです。



神達市長を表敬訪問した茂呂さん(中央)



卒業証書を受け取った卒業生の皆さん

夜間学級で初めての卒業式

令和2年に県内唯一の公立夜間中学として開級した水海道中学校夜間学級で、3月13日、初めての卒業式が執り行われました。国籍も様々な10代から70代の卒業生14人が、青木昇校長から卒業証書を受け取りました。卒業生代表として別れの言葉を述べた倉持優樹さん(24歳)は「人と話すことが苦手だったが、みんなが話しかけてきてくれ、改めて人の大切さを実感しました。夜間学級は生きる意味、学ぶ楽しさを教えてくれました」と感謝の言葉を述べました。14人はそれぞれの目標に向かって、新たな一歩を踏み出しました。